

神奈川県日中友好協会創立30周年記念 祝賀行事

神奈川県日本中国友好協会は、日中国交正常化40周年の今年、創立30周年を迎えました。

去る6月29日(金)横浜のホテルニューグランドにて第27回定期総会と併せてこれを祝賀する記念行事(記念講演会・祝賀会)が盛大に挙行されました。

第27回定期総会「久保 孝雄 会長 開会あいさつ」



本日はご多忙の中、神奈川県日中友好協会の総会にお集まりいただき、誠にありがとうございました。

ご案内のように、今年は県日中の創立30周年にあたりますが、同時に日中国交正常化40周年、そして来年は神奈川県と遼寧省の友好提携30周年を迎えますので、日中関係にとって記念すべき節目がいくつも重なっている重要な時期でもあります。

しかし、この重要な節目の時期に、日中関係はどうなっているかといいますと、あまりいい状況ではありません。かなり心配な状況になっています。名古屋市長の発言、石原都知事の言動など、国交正常化40周年の祝賀ムードに水を差し、日中関係を傷つけるような事件が相次いでいます。しかも、この石原発言を「日中関係を壊しかねない」と批判した丹羽中国大使が、逆に外務省やマスコミから批判され、バッシングされることが起こっています。

また、「アジア重視」の外交を旗印の一つに政権交代したはずの民主党政府なのに、「防衛計画大綱」のなかで戦後初めて中国を「仮想敵」に規定し、尖閣問題を先鋭化させ、自衛隊の南西諸島への配備を強化するなど、アメリカの中国封じ込め戦略に積極的に加担する政策を進めています。

ところが、アメリカは政治的な必要からオーバーなジェスチャーをしています、

とことん中国と対決しようなどとは思っていません。今でもアメリカの外交政策に大きな影響力を持つキッシンジャー元国務長官は最近の論文(「フォーリンアフェアーズ」3月号)のなかで、はっきりと「アメリカは中国と敵対する国家戦略を選択してはならない。米中が対決したら世界は大混乱し、世界経済は破綻してしまう。米中は手を携えて世界が直面する困難とともに立ち向かうべきだ」と書いています。

また、最近の中国の軍備増強については「中国が世界第2の経済大国にふさわしいレベルまで軍事力を増やし、近代化するのは当然のことだ。これをアメリカに対する敵対的行為とみなして対応することになったら、米中は際限のない紛争に巻き込まれてしまう」とも言っている。

ところが、日本のマスコミはこうした冷静な議論はあまり記事にしないで、米中間の緊張が高まっているようなことばかり報道している。そして、中国が軍事大国化し、日本の脅威になっているような論調ばかり展開しています。最近の世論調査で、日本国民の8割が中国に好感を持っていないそうですが、マスコミの今の論調からみれば当然の結果でしょう。ある国際問題評論家(田中宇氏)は、「今のマスコミの中国報道の姿勢は、戦争中、反中国を煽ったところと全く同じだ」と言っています。

あるイタリアの新聞記者も、「中国経済の躍進によって最も利益を受けるのは日本なのに、日本のマスコミはどうしてこんなに反中、嫌中なのか。ヨーロッパでは中国の台頭によって<ヨーロッパ中心の時代>が終わるのではないか、250年ぶりに「中国の時代」が来るのではないか、それに対して欧州はどう対応すべきか、がマスコミの大きなテーマになっているのと比べると違和感を感じてしまう」と言っていました。

もちろん、他方で日中関係の前進を示す動きもいろいろ起きています。日本から中国への渡航者は年間400万人を越える規模になっていますし、来日中国人も震災の関係で去年は激減しましたが、急速に回復し100万人台に乗っています。つまり日中間で現在年間5~600万人、近い将来800万から1000万人近い人たちが交流するようになるわけで、まさに日中両国民大交流時代が始まっています。日中間の地方同士の提携、協力(とくに日本の東北、北陸と中国東北地方)も盛んになっています。中国語を学んでいる日本人も200万人を超え、大学生の第2外国語でも仏、独を抜いて中国語がトップの大学が増えています。

また最近、日中間でドルを介さないで、円と元を直接決済する動きも出てきていますが、これは日中経済関係の一層の発展にとって大変重要な動きであります。

日中両国民大交流時代に加えて、世界第2と第3の経済大国の経済の一層の緊密化、一体化が進めば、日中関係はこれまでになかった新しい時代が開けていく気がいたします。

アメリカと並ぶ世界の大国となった中国との間に健全で安定した関係を築いていくことは、日本の最大の国益であり、私たちが子々孫々に残すべき最大の遺産の一つだと思いますので、状況は厳しいですが、国民、県民の良識を信じつつ、今後とも皆様とご一緒に、草の根からの日中友好の前進のため努力していきたいと思っておりますので、本日の総会のご審議をよろしくお願いいたします。

総会では2011年度(平成23年度)活動報告・決算報告・会計監査報告並びに2012年度(平成24年度)活動計画案・収支予算案が審議され、全会一致で承認されました。

また第16期役員改選が行なわれ、久保 孝雄会長(6期12年間)が退任され、牧内 良平副会長が新会長として選任されました。

なお、長年日中友好に貢献された 副会長 中尾安治氏と会員 横山 敏氏に感謝状が贈呈されました。

第27回定期総会 (久保 孝雄 会長 退任あいさつ)



6期12年間務めてまいりました会長職を、本日退任させていただくことになりました。12年もの長い間、会長職を何とか全うすることができましたのは、偏に皆様方の温かいご支援、ご鞭撻の賜物であり、改めて厚くお礼申し上げます。

私ごとで恐縮ですが、昭和20年の敗戦のとき、私は旧制中学の4年生(今の高校1年)で、典型的な軍国主義少年でした。しかもこの時点で、兄2人と叔父が中国で戦死していましたので、中国を激しく憎んでおりました。しかし、昭和21年の春、機会があって茨城の田舎から上京した折り、上野のヤミ市の近くの本屋で数冊の本と一緒にエドガー・スノーさんの「中国の赤い星」(松岡洋子氏による抄訳版)を何気なく買い求めました。これが私の運命を変える一冊になりました。徹

夜して一気に読み上げた私は、中国に対する考え方が一変しました。兄や叔父は中国と戦ったけれど、弟である私は日本と中国を仲良くする仕事をしたいと考え、現在の東京外語大中国語学科に進学しました。そして初めて就職したのが中国研究所でした。毎日中国語の新聞や雑誌の翻訳に明け暮れていました。

つまり、私の社会人としての第一歩は「中国」だったわけです。そして82歳の今、いわば人生最後の仕事となった神奈川県日中友好協会の会長を退任しようとしています。この間、神奈川県庁時代には神奈川県と遼寧省との友好提携の仕事、KSP(かながわサイエンスパーク)時代には中国のサイエンスパーク活動に協力したり、中国の皆さんと一緒にアジアのサイエンスパーク・ネットワークを作る仕事もいたしました。17歳の少年のとき「日本と中国を仲良くする仕事をしたい」と誓いを立てた志を何とか貫くことができたのではないかと、いま深い感慨を覚えています。

12年間、貴重な機会を与えて下さいました皆様方に、心から厚くお礼申し上げます。長い間ありがとうございました。

なお、後任の牧内さんについて一言申し上げます。牧内さんとは私が県庁現役時代からのお知り合いでございます。当時は神奈川新聞の記者でございまして、県政報道で大変お世話になりました。その後、テレビ神奈川に移られまして、経営危機にあったテレビ神奈川の経営立て直しに敏腕を振るわれ、経営の立て直しに成功されました。放送事業のみならず経営の多角化にも成功し、テレビ神奈川の経営安定の基礎を築かれたわけであります。ご多忙にもかかわらず、日中友好の重要さに鑑み、会長職をお引き受けくださいました。心から感謝申し上げます。

牧内新会長の下で県日中がさらに大きな前進、発展を遂げられるよう心から期待しております。どうかよろしく申し上げます。

記念講演 14:45～15:30 本館2階レインボーボールルーム

「国交正常化40年以来的中日関係」

程 永華 中華人民共和国在日本国特命全権大使



今年、中国と日本は国交正常化から40周年を迎えました。この間、政府間でも民間レベルでも様々な形で交流を深めてきました。中日両国の友好は東アジアの発展に大きな貢献を果たしてきたと思います。

両国の経済交流も盛んになりました。両国間の貿易額は40年間で約300倍以上に増えています。日本の全世界の貿易に占める対中貿易額は20%に達しました。対中投資もますます拡大し、両国の経済関係は二国間のパートナーシップとしては世界有数の巨大な関係といえるでしょう。人的交流も拡大しています。中国人の訪日観光客数は1980年に約1万人だったのが2010年には570万人に増加しました。私が最初に来日した1973年、日本は近くて遠い国でした。北京から広東に行きそこで1泊して、香港へ行きまたそこで1泊。3日目ようやく日本にたどり着いたものです。

それが今やわずか3時間です。日帰りで行き来することも簡単になりました。日中は国民大交流時代に突入しているといえます。

文化交流では日本のアイドルグループSMAPが昨年、中国本土で初公演し、大盛況だったり、今年は、日本で北京・故宮博物院の収蔵品を中国国外で初めて公開するなど活発です。展覧会を開催した東京国立博物館には連日2時間待ち以上の列ができていたと聞き、日本人の中国文化への関心の高さや理解の深さに感激しました。そして、今年は中日国民交流友好年として様々なイベントが予定されています。

中日には2千年の交流の歴史があります。その間には様々な節目となる出来事がありました。2千年の友好、50年の干戈(かんか)を交えるという言葉が両国の関係を最もよく表していると思います。そして現在、中日は両国の関係をさらに強化するチャンスを迎えているのではないのでしょうか。

中日関係を強化するためには大切な四つのポイントがあります。まず一つ目です。両国は不幸な戦争を経験しましたが、その後の交流を経て友好の大切さをあらためて認識したはずです。「和せばともに利益」を忘れてはいけません。

二つ目は互いに協力して「WIN・WIN」の関係を築くことです。良好な中日関係に対しネガティブな声が時折聞こえてきますが、そのような声に惑わされないこと。各界の人々が長期的な視野に立ち、あくまで両国の発展を考えて行動しなければなりません。

三つ目は交流の拡大によって「国民感情の改善」に努めることが必要です。

四つ目は民間友好協力をさらに発展させていくこと。神奈川県日本中国友好協会をはじめ、各県の協会は各県の特徴を生かした活動や次世代につながるような活動に、より一層取り組んでもらえればと思います。

中国大使館としてはこれからも民間友好交流のために、さらなる協力を惜しみません。

記念祝賀会 15:45～17:30 本館2階レインボーボールルーム

開会あいさつ	牧内 良平 会長
来賓代表あいさつ	黒岩 祐治 神奈川県知事
ミニ演奏会	神奈川フィルハーモニー管弦楽団弦楽四重奏
来賓紹介	
乾杯あいさつ	謝 成發 横浜華僑総会会長
祝電披露	
閉会あいさつ	渡邊 史朗 神奈川県病院協会会長

(牧内 良平 新会長 開会あいさつ)



中国通で、学者肌の久保孝雄会長からバトンタッチを受けました。素人ですので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。
総会でお話ししましたが、日中友好を考

える時、原点として押さえておくべきことは、40年前、中国の賠償請求放棄などさまざまな困難の中で合意した田中首相と中国の周恩来首相との日中正常化共同声明の精神であり、大所高所から将来を見つめることであると私は思います。

中国の古典「菜根譚」に、「事を省くに如かず」という人生訓がありますが、まさに日中間にいろいろと障害があっても、友好を図るという大義、大局的見地からモノを考えていくことが大事です。

もう一つ、原点として立ち返るべきは、4年前、福田首相と胡錦濤主席とが交わした日中の「戦略的互惠関係」の構築ということです。物事を長期的な観点、幅広い視野で眺め、お互いの共通の利益を基礎とした関係を作り上げることです。

日本と中国とは、単に隣国というだけでなく、2000年の昔からお互い影響を受け合ってきた仲です。尖閣諸島問題など、障害はたくさんありますが、大義のために未来志向でいきたい。私はそのように考えています。



来賓代表あいさつ
黒岩 祐治 神奈川県知事



神奈川県フィルハーモニー管弦楽団
弦楽四重奏の演奏



円卓スタイルの祝賀会場



ホテルニューグランドのビュッフェ料理
和やかな雰囲気の中で、
ご来賓と会員相互の談笑の輪が広がる